

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

## 森林保護、奨学金に寄付

### 本多博士の「学問と投資」

経済学者のケインズが単なる理論家ではなく、実際に株式投資をして大成功したという話はよく知られていますが、日本の本多静六(ほんだ・せいろく)氏をご存じでしょうか。東京の日比谷公園や福岡の大濠公園は有名ですが、設計者まで言い当てることができる人は少ないでしょう。

明治の中ごろにドイツへ留学、その後、日本初の林学博士となりました。ドイツでは森林や林業の研究を深めました。保養地に関する知識も得て、日本各地で多くの公園を設計しました。ここまでは学者の業績です。ユニークなのは、学者でありながら、当時は珍しかった「株式投資」で大きな財産を築いたことです。本多博士といえば「株で大金持ちになった学者」と語る人もいます。

本多氏を偉大ならしめたのは、生前に、巨額の財産のほとんどを匿名で森林保護や奨学金関連の団体、自治体などに寄付したことです。子や孫のためにすべきことは財産を残すことでなく、自分で生きる力を得るために努力できる環境を整えることだと考え、「子孫に美田を残さず」の格言を率先垂範しました。

本多氏は学問と投資の関係をどう考えていたのでしょうか。留学中に出合った教授から、「学者は精神の独立が大事だ。独立には財産が必要だ」と教えられたそうです。晩年は質素に暮らし、85歳で生涯を閉じました。公園だけでなく、自分の人生も見事に設計した学者でした。

静六氏の孫に、光触媒研究の第一人者だった本多健一氏がいます。静六氏にかわいがられたという健一氏も、同じ85歳で豊かな一生を終えています。(株式会社グッドバンカー)